

キリングループ 国内飲料メーカーで初の FSC[®] 認証紙の採用 100%を達成

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、2020 年末までに酒類・清涼飲料など国内の飲料グループ会社^{※1}の紙製容器包装に使用する全ての紙を、FSC 認証紙へ 100%^{※2}切り替えることを目指しています。このたび、メルシャン株式会社（社長 長林道生、以下メルシャン）の紙バック製品などの切り替えをもって 11 月 6 日（金）時点で、目標としていた国内の飲料グループ会社全てで、FSC 認証紙の採用 100%を達成しました。国内飲料メーカーでは初^{※3}の達成となります。

※1 キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社

※2 限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品等を除く

※3 紙バック、段ボール箱、ギフト箱、6 缶パックの採用において

キリングループでは、キリンビバレッジ株式会社（社長 堀口英樹、以下キリンビバレッジ）が 2016 年に初めて「トロピカーナ 250ml 紙パック」に FSC 認証紙を採用し、FSC 認証ラベルをパッケージに配しました。キリンビール株式会社（社長 布施孝之、以下キリンビール）でも、2017 年にビール類 6 缶パックや「キリン一番搾り生ビールセット」のギフト箱と、順次採用してきました。製品用段ボールもその対象であり、2019 年からはお客様への FSC 認証の仕組みの理解浸透と、当グループの取り組みをより広く知っていただくことを目的に、FSC ロゴを視覚的に見つけやすいように、ビール類 6 缶パックおよび製品用段ボールの天面にも配しました。2019 年 11 月末時点で、キリンビール、キリンビバレッジは FSC 認証紙への 100%切り替えが完了していましたが、今回メルシャンの紙バック製品などの切り替えをもって、目標達成となりました。

また、容器包装以外でも多くの紙を使っていることから、事務用紙についても 2020 年末までに FSC 認証紙または古紙を使用した紙 100%使用を目指すことを宣言しています。現在では、名刺、封筒、コピー用紙などが FSC 認証紙に切り替わっており、今年から新たに「KIRIN」のロゴのついた紙袋にも採用しています。このような取り組みは、貴重な森林の保全と気候変動問題への対応にもつながっています。

キリングループの「FSC 認証紙」導入事例



※画像は各容器種で FSC 認証ラベルが最初に付き始めた製品であり現行商品と異なるものが含まれています。

当社は、社会と企業のレジリエンス強化に向けた新たなビジョン「キリングループ環境ビジョン 2050」の中で「水資源」「生物資源」「容器包装」「気候変動」の 4 つの柱を重要なテーマとして掲げています。FSC 認証紙への切り替えは「生物資源」と「容器包装」のテーマに該当し、容器包装の材料の持続可能性を高めることで、“持続的な生物資源使用、容器包装使用”を実現するための取り組みです。

■ FSC 認証とは

FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会) は、木材を生産する世界の森林と、その森林から切り出された木材の流通や加工のプロセスを認証する国際的な機関です。パッケージの FSC 認証ラベルは、その原材料が適切に管理された森林資源および再生資源などから作られ、責任を持って調達されたことを意味します。(FSC[®] C137754)



今後もキリングループは、豊かな地球の恵みを将来にわたって享受し引き継ぎたいという思いを、バリューチェーンにかかわるすべての人々と共につないでいくために、さまざまな社会課題に対する取り組みを積極的に進めていきます。